

試合進行と審判実務

<待機と準備>

- ① 審判は、その試合の選手が集合する前にコートに行き、審判台付近で選手を迎える。
- ② 審判は、ボールの空気圧をあらかじめ調整しておく。
ボールの下端が地上 1.5m の位置から自然落下させ、バウンド後の最高到達がボールの下端で地上 70cm～80cm 内。

(注) 空気圧の調整は、選手には触れさせない。

<整列>

- ① 双方選手は、サービスライン外側中央に立ち、ネットの方向に整列する。
- ② 審判は、審判台側サイドラインの外側にネットをはさんで立つ。
- ③ 団体戦の場合は、双方チーム全員がベースライン外側に横一列になりネットの方向に立ち、正審の合図（集合）によってネットに進む。
監督がいる場合は、最も審判寄りの位置とする。

<集合>

- ① 正審が、両手を閉じ合わせる仕草で「集合」とコールをする。
- ② 正審の指示の後、選手がネットに進むと同時に審判もコート中央に進む。

<挨拶と確認>

- ① 双方の選手と選手、選手と審判が挨拶をする。
- ② 正審は、チーム名と選手名を順次ジャッジペーパーの選手名と確認する。
(注) ファイナルゲームになった時のために、選手の特徴をジャッジペーパーの選手名の横にメモしておくのがよい。
- ③ 団体戦の場合は、監督・コーチ・キャプテン等が代表して、第1組より順次、紹介し確認していく。

<サービスとコートの選択>

- ① 双方選手の一人（一般的に前衛）が、ジャンケンを行う。
- ② 負けた側が、ラケット公認マーク（表）を相手に示して、ラケットをコートに立て回す。
- ③ ラケットが静止する前に、勝った側が「表」または「裏」と言う。
- ④ 言い当てた場合、勝った側が、先取権を得る。
外れた場合は、負けた側が、先取権を得る。
- ⑤ 先取権を得た側は、サービスとレシーブのいずれか、またはコートサイドを選択する権利を得る。
- ⑥ 相手側は、先取権を得た側が選ばなかったものを選択する権利を持つ。

<試合開始前の乱打>

- ① 正審は、選手にボールを渡し「練習時開1分」とコールする。

- ② 練習の間、正審は審判台側のポスト、副審は反対側のポストの位置に立つ。
(注) 練習ボールがネットに掛かった場合、審判がボールを拾い選手に送る。
45 秒程度経過後、正審は「レディー」とコールし審判台に上がる。

<試合の開始>

- ① 選手は、試合開始の体制をとり、正審のコールを待つ。
② 選手が位置についた後、正審は「サービスサイドXX中(所属)AA・BB
(後衛・前衛)、レシーブサイドYY中(所属)CC・DD(後衛・前衛)、
5/7ゲームマッチ、プレイボール」とコールし、試合を開始する。

<ゲームの進行>

- ① サーバーが、正審のコールがない時、またはレシーバーの体制が出来てないうちにサービスを実施した時は、サービスが入ると入らないにかかわらず、正審は「レット」とコールし、サービスのやり直しを命じる。
この時、サーバーは、正審の次のコールあるまでブレイに入らない。
② 正審は、レットの後には、レシーバーの体制を確認した上で「レットプレイ」とコールし、ゲーム再開となる。
③ タイムがかけられた場合、正審は、必ず「タイム」とコールして、ゲームの進行を停止する。
④ この掲合、正審の「ノータイム」とのコールによってゲーム再開となる。
⑤ サービスがフォルトした場合、正審は、全てに「フォルト」とコールする。
ネットに掛かった場合、コールしない正審が多いが、必ずコールする。
逆にインの場合は、全てコールしない。
⑥ 正審は、「フォルト」をコールする場合において、サービスサイドラインとサービスラインの判定について、副審のサインを確認した後、「フォルト」のコールをする。
⑦ ポイントが確定し、次のサービスに移る場合は、正審は、レシーバーの体制を確認してからゲームのポイントをコール(「ワン・ゼロ」等)し、ゲームを進行させる。
この時、ポイントは、サーバー側のポイントを先にコールする。
(注)「プレイ」とはコールしない。
(注) ポイントのコールは、ゼロ・ワン・ツウ・スリー・フォー……。

<ゲームの終了>

- ① 奇数ゲーム終了時、正審は「ゲーム・チェンジサイズ」とコールする。
② 偶数ゲーム終了時、正審は「ゲーム・チェンジサービス」とコールする。
③ チェンジサイズの場合、選手は監督・コーチ等のアドバイスを受けることはできるが、正審コール後1分以内に、次のゲーム開始の体制をとる。

<次ゲームの開始>

- ① 正審は、レシーバーの体制を確認した後、ゲームカウントをコール(「ゲームカウント・ゼロ・ワン」等)し、ゲームを開始させる。

この場合も、「プレイ」とは、コールしない。

- ② ゲームカウントは、サーバー側のゲームポイントを先にコールする。

＜サービスの順番＞

- ① サービスは、ネットに向かってセンターマークの右側から始め、右左交互に対角線上の相手方サービスコート内にボールを打ち込む。
- ② 2人の選手は、同一ゲーム中に2ポイントずつ交替でサービスを行い、同一ゲーム内ではサービスの順番を替えることができない。

＜レシーブの順番＞

- ① レシーバーは、それぞれ右サービスコートまたは左サービスコートのいずれかでレシーブするものとし、同一ゲーム内では替えることはできない。
- ② レシーブは左サービスコートから始め、右左交互に行う。

＜サービスまたはサイドの誤り＞

- ① インプレイ前であればそのポイントから、インプレイ後であれば次のポイントから訂正する。
それまでのポイントは有効とし、誤りに気づいても、インプレイではプレイを中断しない。
 - (1) サービスのチェンジを誤った場合（チェンジサービス）
 - (2) サイドのチェンジを誤った場合（チェンジサイズ）
 - (3) パートナーとのサービスの順番を誤った場合（ローテーションチェンジ）
 - (4) サービスコートの順番を誤った場合（ローテーションチェンジ）
- ② 誤りが第1サービスのフォルトの後に発見された場合は、その時点で正しい順序に訂正し、第1サービスから行う。

＜ファイナルゲームの開始＞

- ① 正審は、レシーバーの体制を確認した後、「ゲームカウント・ツーオール（5ゲームの場合）／スリーオール（7ゲームの場合）・ファイナルゲーム」とコールし、ゲームを進行させる。
- ② ファイナルゲームは、7ポイント先取で勝敗を決める。
但し、ファイブオールとなった場合、その後2ポイント先取で勝敗を決める。
- ③ 9-9等の同点の場合は、正審は「デュース」とコールする。
デュース後にポイントを取った場合、正審は「アドバンテージ・サーバー／レシーバー」とコールする。
- ④ 2／6／10／14ポイント（以後4ポイント）終了時、正審は「チェンジサイズ」とコールし、サイドを交替させる。
- ⑤ 4／8／12／16ポイント（以後4ポイント）終了時、正審は、「チェンジサービス」とコールし、サービスを交替させる。
- ⑥ 2ポイント終了時のチェンジサービス後、レシーバー側は、どちらの選手が先にレシーブしてもよい。
但し、その後の順番は変わらないものとする。

<試合の終了>

- ① 試合が終了した後、正審は「ゲームセット」のコールをして直ちに審判台を降り、選手を待たせないように選手および副審をネットに寄せる。
- ② 正審が「○対○で○○の勝ち」と勝敗の宣告をした後、選手同士そして選手と審判が挨拶をして解散する。
(注) 正審は、勝者の一人から、採点表の所定の欄に確認のサインを受ける。
- ③ 団体戦の場合は、試合前の挨拶と同様に、双方チームがベースラインの後ろに整列してから、正審の「集合」というコールでネットに寄せ、正審が「○対○で○○の勝ち」と試合の勝敗を宣告した後、チーム同士、双方チームと審判が挨拶をして解散する。